

芝浦工業大学工学マネジメント研究科客員教授
谷口博昭

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来1145カ所（平成30年4月25日現在）が登録されています。休憩、情報発信、地域の連携という三つの基本的な機能により評価され活用されていますが、

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来1145カ所（平成30年4月25日現在）が登録されています。休憩、情報発信、地域の連携という三つの基本的な機能により評価され活用されていますが、

により運転の安全性を回復すると共に、道路利用者との接点ができ、利用者の利便性の向上、地域の雇用の貢献等のメリットを産み、高く評価されています。

「日本風景街道」は、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出すると共に、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした、国民的な原風景の看板除去や樹木・植栽帯の維持管理等を通じた沿線のソフトな活動が重視され、沿線地域社会の再生、活性化が期待されています。日本風景街道大学等の活動により、全国の情報交換・意見交換が行われています。

「道の駅」と「日本風景街道」との連携を

地方創生や防災の拠点というより大きな役割が付加されることにより、更なる進化が期待されます。

ます。全国「道の駅」連絡会が設置され、情報交換・意見交換が促進されています。

を創生する運動を支援するものであります。

「道の駅」、ミニ「道の駅」、記念撮影や小休憩が出来る様なスポットを沿線に適宜設置するハード整備と共に、沿線

「道の駅」と「日本風景街道」の相互関係者の連携が期待されます。

が自動車を停め休憩を取る区（平成29年12月現在）が登録するハード整備と共に、沿線

19年の制度創設以来141地区（平成29年12月現在）が登録するハード整備と共に、沿線

「道の駅」は、道路利用者が自動車を停め休憩を取る区（平成29年12月現在）が登録するハード整備と共に、沿線